

派遣先所属 福島県観光交流局県産品振興戦略課
氏 名 御嶽 周平 (みたけ しゅうへい)
派遣期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の福島県県産品振興戦略課では主に東日本大震災及びそれに伴う原子力発電所事故により、大きく損なわれた福島県産品のブランドイメージアップに関する業務を行っています。これは震災により福島県産品に対する風評がまだ払拭されない状況にあるため、それを払拭し、県産品のブランド価値向上や販路を拡大するための業務です。そして震災から3年半が過ぎましたが、現状では風評はまだ根強く、県内の生産者や事業者にとっては厳しい状況が続いており、県内事業者の販路を維持拡大するためにも早期の風評の払拭が必要です。

担当業務は海外への輸出を促進するための業務や、国際総合見本市への出展及び福島県貿易促進協議会の運営事務等で、福島県職員と一緒に業務に従事しています。

具体的には商談、海外で行われるプロモーション実施に関する事務処理、現地での販売促進活動等を行うものです。

商談やプロモーション活動は、いまだに輸入規制の敷かれている国や地域のある中、比較的規制の緩い東南アジアに着目して輸出を拡大し、震災後皆無となった輸出量は徐々にではありますが、増加しつつあり、輸出先も少しずつ増えている状況にあります。

また、国際総合見本市への出展については、県内事業者の出展をサポートすることで、販路の開拓や拡大を支援する取組です。これは、現地の関係者や消費者に向けて福島県の正しい情報を発信する機会でもあり、福島県産品の販路拡大および風評払拭を目指しています。



店舗でのプロモーション風景

担当業務では、現場で被災者の方に直接相対する機会はありませんが、福島県産品に対する風評払拭に関する業務はとても重要な取組であり、福島県産品のイメージアップを図るとともに、輸出拡大を促進することにより、最終的な受益者である福島県民の方の生活基盤の回復

のため引き続き努力したいと思います。



お酒の展示会

私の所属する職場でもこれまでは休日もなく業務にあたっていたようです。職員は心身ともに疲労が蓄積してきていることは否めない感があるものの、職場は明るく元気に前向き（合い言葉だそうです）に仕事をする雰囲気があります。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

先日、出張の際に福島県の沿岸市町村を通りました。報道で見ていた地震直後の状況とは異なり、落ち着いた感じはします。震災から3年以上が経過しましたが、それでもまだ住宅や市街地の再生はまだ道半ばという感じがしました。また、福島県庁がある福島市では、現在では目に見えるような震災の被害は見られません。休日は、できるだけ福島県の名所や特産品を知るためによくでかけます。福島県は全国第3位の面積があり、実際に県内の移動でも時間がかかります。ですが、そのぶん地域毎の魅力あふれる自然や、日本酒や果物や野菜など美味しい食べ物がたくさんあります。皆様には是非いちど福島へ来て、福島の魅力を感じてほしいと思います。



相馬野馬追い祭り



福島県にはいい温泉がたくさんあります

派遣先所属 福島県観光交流局県産品振興戦略課
氏 名 石井 淳 (いしい あつし)
派遣期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の福島県県産品振興戦略課では主に、福島県産品のブランド価値向上や県内事業者の商品力強化、販路拡大の支援に関する事業を行っています。また、海外販路開拓を目指す事業者の支援に関する業務も所管しています。東日本大震災と原発事故により、福島県産品のブランド価値は大きく損なわれ、県内事業者も従来の販路を失いました。そのため、県産品振興戦略課では、情報発信等を通じた県産品に対する風評払拭に取り組んでいます。

担当業務は国内における県産品に対する風評払拭、販路拡大のための業務で、福島県職員と一緒に業務に従事しています。

具体的には、物産展開催や、大型食品展示会への出展、事業者の商品開発、販路開拓の支援を行うのですが、これは福島県観光物産交流協会に対する補助金の交付を通じて実施しています。

この事業は、全国の主要都市の百貨店での物産展の開催や大型食品展示会であるフードクス・ジャパンへの県ブースの出展に併せて、福島県産品の安全性をPRする取組みを一体的に実施し、県産品に対する風評払拭を目指すものです。

その他の業務としては、「Fukurum (フクラム) カード」の推進に関する業務があり、県と福島県観光物産交流協会、株式会社日専連ライフサービスで構成される推進協議会の運営業務を行っています。「Fukurum (フクラム) カード」はクレジット機能付き会員カードで、カードで買い物した金額の0.1%を福島県の県産品の振興のための事業に使うこととしています。



物産展の風景



イベント会場でFukurumカードをPR

担当業務では、直接事業者の方々とお話しする機会はあまり多くありませんが、事業を通して、多くの事業者が、未だ根強く残る県産品に対する風評により、苦勞されていることが強く感じられます。県産品の販路回復・拡大を目指す取組を通じ、事業者の方々の努力を支援し、産業の振

興による福島県民の生活基盤の回復のため引き続き努力したいと思います。



「B-1 グランプリ in 郡山」会場での情報発信

私の所属する職場は、民間企業等での勤務経験がある職員の方々が多く、これまでの行政にはない新しい視点を自ら考え、積極的にチャレンジする気風があるように感じます。一人一人の業務量は決して少なくはありませんが、観光交流局の「明るく元気に前向きに」の合い言葉のとおり、ポジティブに仕事に取り組んでいる職員が多い印象です。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

私が住んでいる福島市では、現在では目に見える震災の被害はありません。しかし、福島県は、他の被災県と違い、原発事故による風評被害がとて根強く残っています。原発の廃炉まで数十年かかると言われる中、福島県の復興には、長期的な支援が必要だと考えます。

休日は、県内の観光地に出かけるようにしています。仕事柄、普段から観光情報に触れることが多いのですが、福島県は素晴らしい観光地やご当地グルメがたくさんあります。また、ほぼ毎週、県内のどこかでイベントが行われています。有名な日本酒、果物以外にも福島県の美味しい県産品を挙げるときりがなく、本当に魅力溢れる県であると感じています。皆様も是非福島県を訪れ、福島県の現状と魅力をご自身で体験してみることをお勧めします。



福島日本酒



芋煮会の様子